

会 報

No.55 (1996年11月)

目 次

◆第10回 評議員選挙について.....	1
◆第9期 第3回 評議員会報告	2
◆第19回 総会報告.....	4
◆第20回 (1997年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その1)	6
◆ <i>C. elegans</i> 講習会の報告	8
◆ <i>C. elegans</i> 講習会に参加して	9
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について	10
○長瀬科学技術振興財団 平成9年度助成	
○新化学発展協会研究奨励金	
○山田科学振興財団 1997年度研究援助	
◆各種シンポジウム、講習会のお知らせ	12
○さきがけ研究21「遺伝と変化」領域 公開シンポジウム	
○公開シンポジウム「学会の描く21世紀の応用生命科学、生物工学像」	
○千里ライフサイエンス技術講習会 第8回	
“Recent advances in the use of green fluorescent protein as a genetic reporter”	
○千里ライフサイエンスセミナー「細胞周期」、「細胞内カルシウム動態と シグナル伝達」	
○第11回「大学と科学」公開シンポジウム「がん研究最前線」、「生命を育む情報」	
○第9回 日本蛋白工学会年会	
◆第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会合同年会	
特別講演収録ビデオ特別頒布	17
◆雑誌 Genes to Cells 第2巻の購読のご案内	19

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆日本分子生物学会 第10回 評議員選挙について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって、第10回 評議員選挙を行います。そのため、8月28日の第3回評議員会での確認に基づき、品川日出夫（大阪大学）、大熊芳明（大阪大学）、東雄二郎（大阪大学）の3氏が選挙管理委員として会長より委嘱されました。

次いで選挙管理委員3名の打合せを経て、具体的には次のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願いいたします。

記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は、1996年8月31日までに入会手続きを行った正会員とします。同封の「会員名簿」より10名を選んで、その氏名を投票用紙にご記入下さい。投票用紙を同封の小封筒（投票用紙在中と印刷）に入れ、封をした後、同封の送付用封筒（選挙管理委員会御中と印刷）に入れて、ご自分の住所、所属および氏名を記入のうえご送付下さい。

投票締切日 1996年12月10日（火）（必着）

開票予定日 1996年12月16日（月）

当選者の決定 得票数の多い順に20名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。

なお、次の場合には投票または被記名者が無効となりますので、ご注意下さい。

- 1) 投票用紙に11名以上連記した場合。ただし10名以下の場合は無効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒に記入されていないとき。
- 3) 日本分子生物学会細則第7条3項により、以下の方は連続して評議員になることができませんので、今回は記名しないで下さい。なお、この方々に投票のあった場合には、その方に関してのみ、無効といたします。

岡崎恒子、小川智子、志村令郎、杉浦昌弘、鈴木義昭、関口睦夫、本庶 佑、山本正幸

1996年11月1日

日本分子生物学会選挙管理委員会
品川日出夫
大熊 芳明
東 雄二郎

〈参 考〉

会 則（抜すい）

第10条 本会には、会長1名、評議員若干名、会計監査2名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する諸事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第11条 評議員は正会員の中から投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員任期は2年とする。

細 則 (抜すい)

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。
選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。
3. 評議員は連続して3回選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に20名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名单記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高得票者を新会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

◆日本分子生物学会 第9期 第3回 評議員会報告

日 時：1996年8月28日（水）8：00～10：30

場 所：ロイトン札幌 会議室（20階）

出席者：松原謙一（会長）、饗場弘二、大石道夫、岡崎恒子、小川智子、小川英行、榊 佳之、品川日出夫、鈴木義昭、関口睦夫、中西重忠、本庶 佑（第20回年会長）、三浦謹一郎、村松正実、山本正幸（将来計画委員長）、近藤寿人（庶務幹事）、大久保公策（会計幹事）、吉川 寛（編集幹事）、大塚栄子（第19回年会長）、吉田光昭（第21回年会長）

欠席者：志村令郎、杉浦昌弘、中村研三、石浜 明（集会幹事）、谷口維紹（集会幹事）

議 題：

1. 第2回評議員会議事録を確認した。
2. 報告事項
 - 1) 庶務幹事より、日本学術会議第17期会員の推薦のための学術研究団体の登録を行ったことが報告された。
 - 2) 庶務幹事より平成9年度科学研究費補助金の基礎生物学分科・分子生物学細目の審査委員候補者として、第1段審査委員4名、第2段審査委員2名を学会から推薦したことが報告された。
 - 3) 庶務幹事より各種学術賞、研究助成候補の推薦について推薦、受賞状況について報告された。
 - 4) 将来計画委員長より、講習会・研究会を公募し支援する活動について、説明と報告がなされた。学会の規模の拡大のなかで、本学会の主旨を維持する目的も兼ねていること、本年度は7月に桂 勲氏を中心とした *C. elegans* の講習会が国立遺伝学研究所で開かれ好評であったこと、場所を変えて、再度 *C. elegans* の講習会が計画されていることが報告された。
 - 5) 会計幹事より1996年度会計収支の中間報告がなされ、健全な経費の運用が確認された。
 - 6) 大塚第19回年会長から年会の進行について報告された。日本生化学会との合同年会に期待されるとおり、2学会を併せたような発表内容であり、8,500名を越す参加者であった。
 - 7) 本庶第20回年会長より、第20回年会は、1997年12月16日より19日まで国立京都国際会館で開くこと、分子生物学とは少し異なった分野に関するセミナー、抄録のCD-ROM化などが企画され

ているとの報告がなされた。

- 8) 吉田第21回年会より、第21回年会は、1998年12月中旬に東京近辺で開催する予定であることが報告された。
- 9) 編集幹事より、雑誌 Genes to Cells について、現状が報告された。本年3月29日に富沢編集主幹、Blackwell社、編集を援助する日本分子生物学会の3者の間で、正式の契約が交わされたこと、レベルの高い論文の投稿は実現できており、6月号まで発刊、8月号まで入稿していること、今後の更に積極的な投稿によって刊行の安定化が望まれることが報告された。一方、購読数は、寄付分を合わせて8月中旬現在600弱であり、特に国内の購読数の獲得の努力が必要であることが指摘された。
- 10) 庶務幹事より、第10期評議員選挙(12月)の被選挙人名簿を兼ねた会員名簿作製について報告がなされた。

3. 協議事項

- 1) 会計幹事、庶務幹事より1997年度事業計画、予算案について説明がなされた。学会から年会に対する補助が少なすぎるのではないかと指摘がされ、今後は年会関係として年額400万円の予算を組むこととした。
- 2) 編集幹事より、Genes to Cells の1巻(1年分)の学会員価格は、第1巻は7,500円としていたが、為替レートの変化と2巻からの1号当たりの増ページのために1997年は8,000円とすること、今後Blackwell社との間での会員価格の設定は編集幹事と学会長に一任することが提案され、承認された。
- 3) 1996年12月に行う第10期評議員の選挙について、選挙管理委員に品川日出夫大阪大学教授ほか2名(大熊芳明同助教授、東雄二郎同助教授)が会長から指名された。
- 4) 今回の合同年会を一つの契機として、前回の評議員会に引き続いて、日本生化学会から申入れられている二学会の合併の是非問題について議論が交わされた。種々の意見が出されたが、主なるものを列挙すると、学会の活動全体と年会とは明確に区別して考えるべきものである。年会で見ると二つの学会が共有する分野は少なくないが、単に年会の効率化のために学会そのものを合併するという考えは採るべきではない。おりにふれて再び日本生化学会との合同年会を考えるのも良いが、分子生物学は諸分野を横断しているため日本生物物理学会などを含めた他学会と年会の共催も数年に一度行うのがよい。個々の学会には固有の歴史、体質、事業、将来像がある。歴史的に近い分野で二つの学会が並立していたために互いに発展があったのであって、これをいま併合する必然性は日本分子生物学会にはない。どの学会に属するかは、個人の選択にまかされるものである。学会のマンモス化の長所欠点を探るべきであろう。日本分子生物学会が無所属と言うべき集団から出発して、それぞれが出身学会では実現できなかったオリジナルなものを産み出した経過を考える必要がある。歴史的に日本分子生物学会はその役割を果たして来たが、過去を踏まえつつもそれにこだわらず、現状を分析し将来を見すえて、柔軟に考えるべきである。現在の若い会員が二つの学会をどうとらえているのか、将来に向けて合併の方向を望むかどうかが重要である。学会が合併する場合にはそれによって新しい方向性が出せるのかという積極的理由が絶対に必要である。などの意見が出された。会長より、学会を支える集団のウェイトの変化、分野の中心の変化をも吟味しつつ、議論を継続するとの提案がなされ、了承した。

◆日本分子生物学会 第19回 総会報告

日 時：1996年 8月29日（木）9：30～10：15

場 所：北海道厚生年金会館 大ホール

議事内容：

1. 松原会長が開会の挨拶を行ない、総会議長として杉本和則氏、内藤哲氏を選出した。
2. 議長より委任状を含めて800人以上の総会参加者があり、総会が成立していることが報告された。
3. 松原会長より、1996年度の学会活動の概要が紹介された。特に、年ごとの会員数の増大のなかで、講習会の実施や雑誌 Genes to Cells の刊行の支援など研究に直結した学会の活動の重要性が説かれた。また、他学会からの合同の呼びかけに対しては、学会としての結論を急ぐことなく、将来をよく見きわめた議論を積み重ねて行く方針であることが述べられた。
4. 山本将来計画委員長より、今期の委員会の活動について、特に、*C. elegans* の講習会の実施について報告があり、今後このような活動が継続されることが述べられた。
5. 吉川編集幹事より、雑誌 Genes to Cells の刊行について、出版社、編集主幹、学会の3者間で契約が交わされたこと、編集業務に対する学会からの支援、学会員価格の設定などについて説明された。また、Genes to Cells に対する投稿と購読が呼びかけられた。
6. 近藤庶務幹事より、会員数、学術団体の登録、評議員会開催、会報発行、科研費審査委員候補者の推薦、各種学術賞・研究助成候補者の推薦等についての会務報告を受けた。
7. 大久保会計幹事より1995年度会計収支決算書が提出・説明され、異議なく承認された。
8. 大久保会計幹事より1997年度事業計画および予算案が提案・説明され、異議なく承認された。
9. 大塚第19回年会長の報告のあと、清水章第20回年会実行委員長（本庶会長代理）より運営、出版の特色の説明がおこなわれ、次いで第21回年会長に代わって榊佳之評議員による挨拶が行なわれた。
10. 議長より閉会の挨拶があり、総会を終了した。

1996年 8月29日現在会員数

		前年総会・対比
名誉会員	2名	(+ 0)
正 会 員	5,612名	(+401)
学生会員	2,872名	(+381)
外国在住会員	163名	(+ 37)
賛助会員	39社 (46口)	(± 0)
合 計	8,688名	(+819)

1997年度日本分子生物学会収支予算案

(1997年4月1日～1998年3月31日)

収入の部

科 目	96年度予算額	予 算 案	摘 要
学 会 費	28,360,000	30,840,000	入会金 200,000 正会員 22,680,000 学生会員 7,560,000 外国会員 400,000 会員名簿製作なし
賛 助 会 費	1,380,000	1,380,000	
広 告 収 入	1,500,000	0	
預 金 利 子	300,000	300,000	
雑 収 入	50,000	50,000	
小 計	31,590,000	32,570,000	※95年度決算繰越金 とした
前年度繰越金	※7,000,000	6,230,000	
合 計	38,590,000	38,800,000	

支出の部

科 目	96年度予算額	予 算 案	摘 要
事 業 費	10,200,000	12,200,000	印刷部数増 第20回年会 第20回年会
会報発行	2,200,000	3,000,000	
年会プログラム	1,800,000	2,000,000	
年会特別講演謝金	200,000	200,000	
第21回年会補助	1,000,000	2,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
その他	1,000,000	1,000,000	
評 議 委 員 会 費	3,800,000	1,000,000	会員増に伴う発送 手数料増
委員 会 費	800,000	1,000,000	
選挙・名簿製作費	3,000,000	0	
業 務 委 託 費	8,000,000	8,500,000	会報に名簿同封なし
一 般 事 務 費	9,360,000	8,510,000	
用 品 費	10,000	10,000	
印 刷 費	300,000	300,000	
通 信 費	8,300,000	7,400,000	
庶 務 事 務 費	650,000	650,000	
雑 費	100,000	150,000	
予 備 費	1,000,000	1,000,000	
小 計	32,360,000	31,210,000	
次年度繰越金	6,230,000	7,590,000	
合 計	38,590,000	38,800,000	

※ 上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金 4,000,000 円 (MMC 定期) があります。

◆第20回（1997年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その1）

第20回 日本分子生物学会年会を下記の要領で京都において開催いたします。

1. 会 期：1997年12月16日（火）～19日（金）
総会12月18日（木）
2. 会 場：国立京都国際会館 （京都市左京区宝ヶ池）
京都宝ヶ池プリンスホテル（京都市左京区宝ヶ池）
3. 内 容：第20回年会は、ポスターによる一般演題の他に、海外からの招待講演者を含む3人前後の演者からなる12のシンポジウム、比較的個別の問題に絞った多数のワークショップ、テクニカルセミナー、さらに分子生物学から離れた内容を扱う異分野セミナーから構成されます。多数の方々のご参加をお願いいたします。
4. 応 募：シンポジウムは、同時に3つのみが進行する形をとり、テーマについては公募しません。ワークショップは、合計32テーマほどを考えており、一般公募を行います。ワークショップのオーガナイズを希望される方は、「ワークショップのテーマと概要（400字程度）、オーガナイザー2人と演者3人の氏名、所属、職」を、1997年2月末日までに、下記まで送付（郵便またはファックス）して下さい。公募をもとに、日程、会場、シンポジウムとの関係をプログラム委員会で検討の上採否を決定いたしますので、採択されないこともありうることをあらかじめご了承下さい。なお、一般演題の抄録用紙と応募要領は会報 No. 57（5月上旬）でお届けし、申込締切は1997年7月31日とする予定です。

第20回 日本分子生物学会年会

年会長 本席 佑

ワークショップテーマ送付先：〒606-01

京都市左京区吉田近衛町

京都大学大学院医学研究科 分子細胞情報学講座

第20回 日本分子生物学会年会

プログラム委員長 月田承一郎 宛

Fax. (075) 753-4660 Tel. (075) 753-4378

第20回 日本分子生物学会年会抄録の電子化のご案内

第20回日本分子生物学会年会では、抄録情報のより効率的な利用と印刷・郵送経費の節約を考え、抄録の電子化（CD-ROM化）を試みることにしました。従来の方法からの変更点がやや大きいので、その概略をお知らせし、会員各位のご協力をお願いいたします。

1. 演題の募集方法について：年会事務局から募集要項と一緒に送るフロッピーディスクに、パソコンを用いて入力して送っていただきます。入力方法はフロッピーディスクと要項の指示にしたがっていただければ容易に行えるようにいたします。用いるパソコンはマッキントッシュを原則としますが、そのほかのものについてもできるだけ対応できるようにいたします。
2. 抄録について：年会参加者にお渡しする抄録はCD-ROMとします。会場では内容を見るのが困難になりますので、できるだけ事前登録をしていただいて（事前登録者には参加章と同時に発送できます）、あらかじめ必要な部分に目を通し、各自で印刷していただきたいと思います。人名や演題名による検索などはパソコン上で容易にできるようになります。ただし、これまでと同様に印刷された抄録が必要な方には、事前に予約していただき必要部数を算定した上で印刷いたします。この場合、印刷経費の実費（1冊3,000円程度の見込み）をご負担いただくことになります。
3. プログラムについて：プログラムはこれまで通りの形式で印刷します。これを今までは会員にのみ配布していました（抄録にも同じものが印刷されていたので）。今回はこれを会員のほか参加者全員に配布いたします。これにより会場での最低限の情報（どこで、なにをしているかなど）は得ていただけたと思います。はじめての試みで、ご不便をおかけすることも多いかと存じますが、検索の効率化やインターネットを用いた情報の発信、省スペース等に寄与できる試みであると期待しております。

会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

（第20回 年会長 本庶 佑）

会報 No. 53でお知らせした *C. elegans* 講習会を、予定通り 7 月 15 日～20 日に国立遺伝学研究所で開催しましたので、その内容を報告いたします。45 名の応募者の中から以下の 15 名の受講者が、企画準備委員会によって選考され、講習会に参加しました（企画準備委員と講師の名前は会報 No. 53に掲載）。

荒田洋一郎（帝京大・薬・助手）、荻谷研一（神戸大・医・講師）、河野 強（サントリー生物有機科学研・研究員）、北 潔（東大・医科研・助教授）、五嶋良郎（横浜市大・医・助教授）、佐伯 智（東大・理・大学院生）、佐藤 博（金沢大・がん研・助手）、城圭一郎（佐賀医大・生化・助教授）、寺崎（五井）朝子（新技団・土居プロ・研究員）、藤井道彦（横浜市大・木原生物研・助手）、藤田 篤（工技院・生命工学工業技術研・主任研究官）、松本邦弘（名大・理・教授）、森光俊晴（奈良先端大・バイオサイエンス・大学院生）、吉川真悟（筑波大・基礎医・講師）、渡辺信元（理研・ライフサイエンス筑波研セ・前任研究員）

講習会は、15 日午後～19 日午前に実習（実験）と解説（講義）、19 日午後～20 日午前に討論会という日程でした。実習と解説の内容および担当講師は、以下のとおりです。

（実習 1）*C. elegans* の観察と遺伝学の基礎（担当：安達、石井、桂）：野生型雌雄同体と雄の形態・行動の観察、交配の仕方、種々の変異体の観察、EMS 処理した線虫より変異体の分離。（実習 2）遺伝子発現解析法（抗体）（Siddiqui）：抗チュブリン抗体・二次蛍光抗体による *C. elegans* 幼虫・成虫の固定・染色と観察。（実習 3）遺伝子発現解析法（*in situ*）（小原）：胚の whole mount *in situ* hybridization 法（固定、ハイブリダイゼーション、発色、観察）。（実習 4）DNA 導入（石原）：生殖器官への顕微注入による DNA の導入（染色体外で維持）、受講者が各自の研究に使う DNA を持参し導入できるように配慮した。（実習 5）遺伝子発現解析法（GFP, lacZ）（三谷）：lacZ 融合遺伝子を導入した *C. elegans* の固定・染色と観察、GFP 融合遺伝子を導入した *C. elegans* の観察。（実習 6）ノマルスキー光学系による細胞核の観察・同定（森）：寒天層に線虫を載せて検鏡する方法、頭部の個々の神経細胞（神経環より後）の同定。（実習 7）*C. elegans* のデータベースへのアクセス法（佐野）：ワークステーションによる ACeDB (*C. elegans* ゲノムデータベース) の使い方。（解説 1）*C. elegans* の論文の読み方（桂）：遺伝子記号、遺伝モザイク解析法、マッピング法の解説。（解説 2）DNA・RNA の抽出法（小原）：特に mRNA 抽出の際の注意点について。（解説 3）変異株の分離法（石井）：薬剤・放射線・トランスポゾン転移による変異の誘起と変異体の選択。（解説 4）遺伝子破壊（安達）：PCR による特定遺伝子のトランスポゾン挿入変異体・欠失変異体の検出と Sib-selection。（解説 5）導入 DNA の染色体への挿入法（三谷）：紫外線照射による講師独自の方法の紹介。（解説 6）行動のアッセイ（森）：線虫の行動の特徴と行動のアッセイにおける一般的なコツ。（解説 7）レーザーによる細胞破壊（森）：機械の調整法とレーザー照射強度の目安、幼虫の神経細胞破壊のデモ実験。（解説 8）研究協力関連情報の紹介（佐野）：国内外の線虫関連のインターネット情報と印刷物の解説。

実習は、初歩の実習 1 からかなり高度なものまで、実際に役立つものを選びました。多くの実習は顕微鏡を使うため、モニターを利用した上に各 5 人の班に分けて行ないました。時間的な制約で実習ができないものは、解説で補ったつもりです。今回は受講者の約半数が既に *C. elegans* を使った経験がありましたが、*C. elegans* の遺伝解析の体験は少なく、変異表現型の観察やマッピング法の解説などの講習をやる価値が十分ありました。本講習会のねらいは、単に技術の伝達だけではなく、実習を通して学問的な方法論を考えることにもありましたので、討論のための自由時間を多く確保しました。また、実習の説明でも単に技術的なポイントを押えるだけでなく、その技術がどのような研究に使えたか、実例を挙げて解説するといった工夫もしました。受講生も非常に熱心で、連日夜遅くまで、実習の続きの自習、講師をひっぱり出しての予定外の講習、講習生どうしのディスカッションなどが続き、講習会の目的はおおむね達成できたと考えています。

実習と解説が終了した後に、討論会「*C. elegans* 研究の将来」を開催しました。ここでは、発表者が各自の研究に基づき今後の展望を示し、これに対して討論を行いました。発表者は、講師より8名、受講者より北潔と佐藤博、それに企画準備委員会より依頼した大島靖美（九大）、香川弘昭（岡山大）、杉本亜砂子（東大）、高木新（名大）、野田亮（京大）、細野隆次（金沢大）、三輪錠司（NEC）の合計17名でした。新しい変異体の分離法、遺伝学と逆遺伝学の使い分け、興味ある遺伝子の構造と機能、細胞分化や神経突起成長の分子メカニズム、老化・寄生・学習などの問題への全体的なアプローチ、ゲノムプロジェクトへの寄与などが議論されました。なお、この討論会は国立遺伝学研究所の研究会の枠を用いて行なわれ、この部分のみが一般公開されました。

近年、*C. elegans* を用いて分子機能を多細胞個体レベルで調べることや、多細胞機能に関わる未知の遺伝子を発見・解析することの重要性が高まるとともに、ゲノムプロジェクトが進んでいることの利点が認識されてきたようです。そのために、*C. elegans* 研究に参入しようとする者、研究材料の1つとして *C. elegans* を使う計画を持つ者が増え、講習会の需要が増大しました。これに対し、既に *C. elegans* 研究を行っている国内の研究者が最近実力をつけてきたので講師の人材が揃い、講習会はタイミングとして適当な時期に行われたと思います。講習会の性質上、受講者の人数を制限する必要があり、このため優秀な応募者を多数お断りせざるをえなかったことが心残りでした。これについては、次回の講習会を大島靖美教授（九大・理）が引き受けて下さったので、ご期待下さい。今回の講習会は、実務的な実験技術の伝達に役立つだけでなく、遺伝子から多細胞個体に至る因果関係をいかに解明するかという討論としても、実り多いものでした。また、優秀な受講者が集まり、講師と受講者が一体となってエキサイティングな時間を過ごせたと思います。関係者一同、今後の分子生物学の発展のために役立ったのではないかと、ささやかな幸福を感じているところです。

◆ *C. elegans* 講習会に参加して

佐藤 博（金沢大学がん研究所ウイルス部）

我々は多細胞生物の組織構築におけるマトリックスメタロプロテアーゼの役割について癌の浸潤・転移とも関係づけて研究しています。しかし、ヒトまたはマウスを使っての分子生物学的アプローチは複雑なため、より単純な実験系として線虫 (*C. elegans*) を考えていた矢先に、日本分子生物学会から *C. elegans* 講習会の募集があったので早速応募しました。私にとっては技術の習得というよりは線虫でどんなことができるのか知りたいという軽い気持ちで応募しました。幸い応募は受理されましたが、後日定員15名に対して45名の応募、実に競争率3倍の難関を突破した事が知らされ驚きました。

講習会は7月15日から20日まで桂・小原先生のお世話で三島市の国立遺伝学研究所で行われました。参加者は教授クラスから大学院生まで多様でしたが、この講習会で初めて線虫に触れるのは私ぐらいのようでした。講習会は *C. elegans* 論文の読み方、*C. elegans* 観察と遺伝学の基礎から始まり遺伝子発現解析法（免疫染色、*in situ* hybridization, lacZ・GFP）、遺伝子導入、トランスポゾンによる遺伝子破壊、ノマルスキー光学系による細胞核の観察・同定、レーザーによる細胞破壊から *C. elegans* データベースへのアクセス法まで多岐にわたりましたが講師の方々の入念な準備により実にスムーズに進行しました。

線虫の第一印象としては分子生物学の経験のあるものにとっては比較的取扱い易い研究対象であると感じました。もちろんこれらは顕微鏡などの機械類が完全にセットアップされ、線虫が絶妙のタイミングで用意されていたことを忘れてはなりません。またほとんどの顕微鏡にはモニターが附属しており講師の方々の説明が実に理解しやすかった点も見逃せません。

19日午後から20日の午前中は『*C. elegans* 研究の将来』と題して講師の先生方以外にも国内の線虫研究者が集まり研究集会が開かれました。いずれの演題も私にとっては新鮮で興味深いものでしたが、特に従来の遺伝学に加えて機能不明の高等動物遺伝子を逆遺伝学により解析しようとする試みは我々のよ

うに今後線虫を取り扱おうとするものにとっては実に示唆に富む議論でありました。全ゲノム配列も2～3年以内に決定されそうな状況ですから今後はこのような観点から線虫を扱う研究者が増えるのではないかと考えられます。

講習会では各講習の素晴らしさに加えて線虫研究者の研究に対する純粋かつ謙虚な態度に感激しました。初日のレセプションでの自己紹介で『線虫を選んだ理由は線虫をやっている人は他のーと違って優しいと聞いたものですから』と挨拶した受講者がいましたが正しい判断だと納得しました。また講習会のお手伝いをしていただいた遺伝研の大学院生の方々も積極的にディスカッションに加わり久しぶりにアカデミックな雰囲気を楽しむことができました。最後に大変な労力でこの講習会を企画・準備していただきました桂・小原先生ならびに遺伝研の安達・石原先生その他講師の先生方に感謝するとともに *C. elegans* 研究の一層の発展を期待します。

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会選考委員会の審査にもとづいて、学術賞、研究助成について下記のように本学会から推薦いたしました。

- 第23回（平成8年度）日産学術研究助成：一般研究
宮島 篤（東大・分生研 教授）：サイトカイン機能発現の分子機構
佐壽壽孝（京大・ウイルス研 助教授）：細胞周期 M 期進行における蛋白質チロシンリン酸化酵素の役割の解析
なお同時に奨励研究助成に対して5件を本学会から推薦した。
- 第13回（平成8年度）井上学術賞
坂野 仁（東大・院・理 教授）：リンパ細胞における抗原受容体遺伝子の再構成
- 第37回（平成8年度）東レ科学技術研究助成
中山敬一（九大・医 教授）：神経再生に関する基礎研究と脳移植への応用

例年、本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞・研究助成は、本号に掲載したもののほか会報 No. 53に一覧として掲載しております。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先へ確認をお願い致します。申請書類は各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出資料：

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出期限：

本申請の1カ月前までに、〒565吹田市山田丘1-3 大阪大学細胞生体工学センター 日本分子生物学会 庶務幹事 近藤寿人 [Fax. (06)877-1738] まで郵送して下さい。

3. 注 意：

本申請の1カ月前までという提出期限後に受取った場合や、提出資料が不備な場合は選考の対象とならないことがあります。

○財団法人 長瀬科学技術振興財団 平成9年度助成

わが国の生化学および有機化学等の分野における研究開発および国際交流に対し助成等を行う事により、科学技術の振興を図り、社会経済の発展に寄与する事を目的とし、平成9年度の研究助成を行う事といたしました。

1. 研究助成対象

- 1) 生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関
- 2) 生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘（除く留学）

生化学は主として次の分野とします。

- ・微生物の基礎および応用研究
- ・酵素の基礎および応用研究
- ・細胞培養の基礎および応用研究
- ・内因性防御物質の基礎および応用研究

有機化学は主として次の分野とします。

- ・ π 電子系機能材料の基礎および応用研究
- ・有機機能材料の合成および応用研究
- ・生体関連機能物質の合成および応用研究
- ・不斉合成反応の革新的触媒の開発への基礎および応用研究

2. 助成対象期間：平成9年4月～平成10年3月末

3. 件数および金額

- 1) 研究助成金 1件250万円以内 10数件
- 2) 国際交流助成金 1件 50万円以内 10件程度

4. 応募資格

- 1) 研究者であれば個人またはグループを問いません。
- 2) 同一内容で他の財団から既に助成を受けている個人またはグループはご遠慮願います。
- 3) 当財団に結果の報告書提出が可能な方。

5. 応募締切日：平成8年12月15日（日）

6. 助成金交付時期：平成9年4月（予定）

7. 応募要領および注意事項

A. 所定用紙に記入して提出する場合

- ・当財団所定の用紙に記入して応募して下さい。

- ・応募ご希望の方は下記宛にハガキあるいはFax等書面でご請求下さい。申請用紙を折返しお送りいたします。（電話での請求はご遠慮下さい）

B. フロッピーディスクにて提出する場合

- ・当財団所定のフロッピーディスクに入力して応募して下さい。

- ・応募ご希望の方は下記宛にハガキあるいはFax等書面でご請求下さい。フロッピーディスクを折返しお送りいたします。

（電話での請求はご遠慮下さい）

- ・Excelでファイルを開いて入力して下さい。

- ・「研究の目的」「研究の具体的内容、意義」については、Wordでファイルを開いて入力して下さい。

- ・入力方法はお任せしますが、提出するFDはWindowsフォーマットをお願いします。（コピーは必ずお持ち下さい）

- ・参考として、使用したパソコン機種、応用ソフト、バージョンの情報を別紙で添付して下さい。

A・B共通の注意事項

- 1) 申請書（プリントアウトしたもの）は、正・副各1通提出して下さい。
- 2) 申請書は、ホッチキスではなく、クリップ等でとめて下さい。
- 3) 申請にあたりましては、1件の応募につき、1通の封筒でお願いいたします。
- 4) 当財団が申請書を受領したことをお知らせするため、宛名（〒、住所、氏名、機関名等）をご記入の上、「返信用はがき」を同封下さい。

8. 問合先：(財)長瀬科学技術振興財団

〒550 大阪市西区新町1-1-17

Tel. (06)535-2117, Fax. (06)535-2160

〒103 東京都中央区日本橋小舟町5-1

Tel. (03)3665-3021, Fax. (03)3665-3030

(NIFTY-Serve ID: KYQ01770)

○社団法人 新化学発展協会 研究奨励金

(財)新化学発展協会では、基礎研究の推進と研究者の育成を通じ新化学の発展を図ることを目的に、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対して、下記に従って研究奨励金を交付いたします。研究奨励金の交付を希望される方は、下記の研究課題の中から1つを選び研究計画を作成し、略歴、既発表論文一覧表と共に協会事務局まで提出して下さい。なお、研究課題の説明および応募要領等の詳細は、協会事務局までお問合せ下さい。

1. 研究課題

1) 触媒化学分野

環境調和型プロセス構築のための高度にデザインされた機能複合型固体・錯体触媒に関する研究

2) コンピュータケミストリー分野

超微粒子、クラスターの物性解析シミュレーションに関する研究

3) 新素材技術分野

ゾルゲル法を用いた有機・無機ハイブリッド化プロセスによる新規機能性材料の創製に関する研究

4) 電子素材技術分野

超高密度デバイスを可能とする材料に関する基礎的研究

5) 電子素材技術分野

次世代高密度・高速光記録に関する基礎的研究

6) ライフサイエンス分野

機能性物質の創製をめざした、生体高分子の高次構造レベルでの構造認識機構と機能の解明に関する研究

7) 地球環境関連分野

酵素・微生物・生体ハイブリッドを用いた既存化学製品製造のための新しい反応プロセスに関する研究

2. 応募資格

大学またはこれに準ずる研究機関において研究活動に従事し、39歳以下（昭和32年4月1日以降に出生）の者

3. 件数および金額

原則として各課題1件とし、それぞれに150万円を交付

4. 条件

1～2年以内に協会の研究会などで研究成果を報告する。

5. 応募締切：平成9年3月3日（月）

6. 交付時期：平成9年6月（予定）
 7. 応募・問合せ先：〒101 東京都千代田区神田駿河台
 1-5 化学会館4階

(財)新化学発展協会研究奨励金 係
 Tel. (03)3294-8031
 Fax. (03)3294-8034

○山田科学振興財団 1997年度研究援助

1. 援助の趣旨および内容
 - 1) 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助をいたします。実用指向研究は援助の対象としません。
 - 2) 援助額は1件当たり100～500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦および本財団関係者からの個人推薦の中から選考いたします。
 - 3) 援助金を給与に充てることは出来ませんが、特に財団が指定した場合を除き、他の用途は自由です。
 - 4) 援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の計2年間とします。
2. 推薦方法
 - 1) 推薦者：本財団が依頼した学(協)会の代表者
 - 2) 推薦件数：1推薦者ごとに2件以内
 - 3) 推薦手続：推薦者は以下書類を整え、ご送付下さい。
 - ① 所定の推薦書用紙またはその写しに必要な事項を記入したもの 4部
 - ② 添付書類（研学(97)-5/7 ページ参照）
3. 記載上の注意
 - 1) 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
 - 2) 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込みをすることについての承諾を得て下さい。
4. 推薦締切期日
 本財団に推薦書が到着する締切期日は1997年3月31日。
5. 選考方法
 選考委員会において選考の上、理事会が決定します。
6. 選考結果の通知
 1997年7月末までに推薦者および代表研究者等宛て文書にて通知します。
7. 援助金の贈呈
 選考結果の通知後適時銀行振込にて贈呈いたします。
8. 推薦書送付先および連絡先
 (財)山田科学振興財団 (Yamada Science Foundation)
 〒544 大阪市生野区巽西1-8-1
 Tel. (06) 757-3311(代表)
9. 研究の成果および会計の報告
 援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出および研究交歓会での発表をしていただきます。
10. 付記
 - 1) 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
 - 2) 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財)山田科学振興財団、Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類にあってはその別刷1部、また著書の類にあってはその1部をご寄贈願います。
 - 3) ご提出頂きました推薦書および添付書類は、お返しいたしません。

研究者各位へ

推薦者の項に対応する学(協)会は次記のとおりです。学(協)会により締切期日および募集方法等が異なりますから、代表研究者は応募の際、各学(協)会にお問合せ願います。

日本天文学会	日本化学会	日本生理学会	日本生物物理学会
日本物理学会	高分子学会	日本遺伝学会	日本発生物学会
応用物理学会	日本農芸化学会	日本分子生物学会	日本植物生理学会
日本金属学会	日本薬学会	日本動物学会	日本植物学会
日本地震学会	日本生化学会	日本細胞生物学会	日本免疫学会
地球電磁気・地球惑星圏学会			

◆各種シンポジウム、講習会のお知らせ

○さきがけ研究21「遺伝と変化」領域 公開シンポジウム—新しい生物学へのチャレンジ—

日時：1996年11月21日（木）13：30～17：30

場所：KKR ホテル大阪

(JR 環状線森ノ宮駅下車西へ徒歩10分)

(大阪市中央区馬場町2-24 Tel. (06)941-1122)

主催：科学技術振興事業団(旧 新技術事業団)

さきがけ研究21「遺伝と変化」領域

領域総括：豊島久真男(大阪府成人病セ 総長)

プログラム：

1. 事業団/領域総括：挨拶

2. 「脳の細胞分化と遺伝子」

演者：堀田凱樹(東大・院・理・物理)

座長：江口吾朗(基生研・発生物)

3. 「神経伝達の分子メカニズム

—高次脳機能の解明へ—

演者：中西重忠(京大・院・医・生体情報科)

座長：喜多村直実(東京工大・生命理工・生命理)

4. 「生体防御における細胞応答の制御」

演者：谷口維紹(東大・医・免疫)

座長：松本邦弘(名大・理・分子生物)

5. 閉会挨拶

参加費：無料

参加申込方法：参加ご希望の方は氏名、所属、連絡先、

Fax. 番号を明記のうえ、下記まで、

Fax. またはハガキでお申込み下さい。

会場の都合により150名(先着順)に限
定させていただきます。

参加申込先: 〒619-02 京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ ラボ棟 5F

科学技術振興事業団さきがけ研究21
「遺伝と変化」領域事務所

Tel. (0774)95-5173, Fax. (0774)95-5179

○公開シンポジウム「学会の描く21世紀の応用生命科学、生物工学像」

日 時: 1996年11月29日(金) 9:50~17:00

場 所: 日本学術会議講堂
(地下鉄千代田線乃木坂駅下車すぐ)
(東京都港区六本木7-22-34)

主 催: 第16期日本学術会議生物工学研究連絡委員会

後 援: 日本農芸化学会、化学工学会、日本生物工学
会、日本植物細胞分子生物学会、日本植物学
会、日本人工臓器学会、日本生化学会、日本
分子生物学会、日本動物細胞工学会、バイオ
インダストリー協会

参加費: 無料〔ただし、資料代 2,000円(学生は無料)]
プログラム:

開会の辞 9:50~10:00 松野隆一(京大・農 教授)

講 演 10:00~11:00

日本生化学会 10:00~10:30

会長 安楽泰宏(東大・院・理 教授)

座長 永井和夫(東京工大・生命理工 教授)

日本分子生物学会 10:30~11:00

前会長 三浦謹一郎

(学習院大・生命分子科学研 所長/教授)

座長 小林 猛(名大・工 教授)

特別講演 11:00~12:00

「21世紀における生命科学」11:00~11:30

伊藤正男(日本学術会議 会長)

座長 山田康之(奈良先端大・バイオサイエンス 教授)

「生物系の研究助成」11:30~12:00

中西鈿治(文部省学術国際局 審議官)

座長 松野隆一(京大・農 教授)

休 憩 12:00~13:00

講 演 13:00~16:20

日本植物細胞分子生物学会、日本植物学会

13:00~13:30

元会長(日本植物細胞分子生物学会)

次期会長(日本植物学会)

駒嶺 穆(日本女子大・理 教授)

座長 児玉 徹(信州大・繊維 教授)

日本動物細胞工学会 13:30~14:00

会長 上野川修一(東大・院・農学生命科学研 教授)

座長 古崎新太郎(東大・院・工 教授)

日本農芸化学会 14:00~14:30

会長 別府輝彦(日本大・生物資源科 教授)

座長 荒井綜一(東大・院・農学生命科学研 前教授)

休 憩 14:30~14:50

日本人工臓器学会 14:50~15:20

副理事長 井街 宏(東大・医・医用電子研 教授)

座長 酒井清孝(早大・理工 教授)

日本生物工学会 15:20~15:50

会長 児玉 徹(信州大・繊維 教授)

座長 新名惇彦(奈良先端大・バイオサイエンス 教授)

化学工学会 15:50~16:20

会長 古崎新太郎(東大・院・工 教授)

座長 熊谷英彦(京大・農 教授)

ま と め 16:20~16:50 松野隆一(京大・農 教授)

閉会の辞 16:50~17:00 熊谷英彦(京大・農 教授)

○千里ライフサイエンス技術講習会 第8回

“Recent Advances in the Use of Green Fluorescent Protein as a Genetic Reporter”

日 時: 1996年11月22日(金) 10:00~15:00

場 所: 千里ライフサイエンスセンタービル9階
(地下鉄御堂筋線千里中央駅北改札口すぐ)
(豊中市新千里東町1-4-2)

主 催: (株)千里ライフサイエンス振興財団

後 援: 東洋紡績(株) Clontech Laboratories

協 賛: (株)千里ライフサイエンスセンター

内 容:

1. Background of GFP from *Aequorea victoria*.
2. Development and characteristics of variants of GFP which alter the spectral properties of the protein.
3. Comparison of EGFP (a highly fluorescent, high expressing GFP variant) with lacZ as a selection marker for mammalian cell transfections.
4. Examples of how various forms of GFP have been used in a number of applications, including protein

localization, transgenic selection, double labeling, and gene expression studies.

講 師: Dr. Paul Diehl (Clontech Laboratories)

(講演は英語ですが、日本語での質問も可)

定 員: 約50名

参加費: 3,000円

申込方法: 氏名、勤務先、所属、役職、所在地、〒、
Tel.、Fax. 番号を明記の上、郵便または
Fax. で下記宛お申込み下さい。受講料は参
加決定後にご請求いたします。

申 込 先: (株)千里ライフサイエンス振興財団

技術講習会係

〒565 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

Tel. (06)873-2001, Fax. (06)873-2002

○千里ライフサイエンスセミナー

「細胞周期—血管内皮系細胞の分化、増殖を中心に—」

日時：1997年1月17日（金）10：00～17：00
場所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
ライフホール
（地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ）
（豊中市新千里東町1-4-2）

主催：(財)千里ライフサイエンス振興財団
協賛：(株)千里ライフサイエンスセンター
コーディネータ：澁谷正史（東大・医科研 教授）
秋山 徹（阪大・微研 教授）

プログラム：

1. 細胞周期に関する最近の話題
平井 洋（東大・医科研 助手）
2. 細胞周期と癌抑制遺伝子の関連
秋山 徹（阪大・微研 教授）
3. 血管新生と転写因子
佐藤靖史（東北大・加齢研 教授）
4. 内皮細胞増殖因子 VEGF とその作用機序
澁谷正史（東大・医科研 教授）
5. TGF β レセプターとシグナル伝達
宮園浩平（癌研 部長）

参加費（講演要旨集合含む）：

会員（ただし、大学、官公庁、主催・協賛団体会員）
：6,000円
非会員
：8,000円
学生
：3,000円

定員：300名

参加申込方法：

①氏名、②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、Tel、Fax. 番号を明記の上、郵送または Fax. で下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に大和銀行千里中央支店普通預金 No. 4601085財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込み下さい。なお振込みの際、振込者名の前に K2 とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

申込先：(財)千里ライフサイエンス振興財団

セミナー係（担当：井関・林）

〒565 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

Tel. (06)873-2001, Fax. (06)873-2002

「細胞内カルシウム動態とシグナル伝達—その生理と病態—」

日時：1997年2月21日（金）10：00～17：00
場所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
ライフホール
（地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ）
（豊中市新千里東町1-4-2）

主催：(財)千里ライフサイエンス振興財団
協賛：(株)千里ライフサイエンスセンター
コーディネータ：御子柴克彦（東大・医科研 教授）
プログラム：

1. 受精とカルシウム 宮崎俊一（東京女子医大 教授）
2. 平滑筋細胞収縮のカルシウム制御と形質転換（分化・脱分化）における遺伝子発現制御
祖父江憲治（阪大・医 教授）
3. 細胞内カルシウム動態と分泌
河西春郎（東大・医 助教授）
4. シナプスの可塑性とカルシウム
津本忠治（阪大・医 教授）
5. 心血管系におけるカルシウムシグナルのダイナミックス
飯野正光（東大・医 教授）
6. IP₃ レセプターとカルシウムシグナリング—その生理機能と病態— 御子柴克彦（東大・医科研 教授）

参加費（講演要旨集合含む）：

会員（ただし、大学、官公庁、主催・協賛団体会員）
：6,000円
非会員
：8,000円
学生
：3,000円

定員：300名

参加申込方法：

①氏名、②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、Tel、Fax. 番号を明記の上、郵便または Fax. で下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に住友銀行千里中央支店普通預金 No. 128278財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込み下さい。なお振込みの際、振込者名の前に K3 とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

申込先：(財)千里ライフサイエンス振興財団

セミナー（K3）係（担当：桜井・井関）

〒565 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

Tel. (06)873-2001, Fax. (06)873-2002

○第11回「大学と科学」公開シンポジウム

「がん研究最前線」—研究と臨床の現場から—

会期：1996年12月10日（火）・11日（水）
会場：千里ライフサイエンスセンター
（地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ）
（豊中市新千里東町1-4-2）
主催：第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
後援：文部省、学術情報センター、日本学術振興会、放送大学学園、経済団体連合会、日本病理学会、日本癌学会、(財)日本血液学会、

(財)日本消化器病学会、(財)日本外科学会、(財)日本医学放射線学会、日本化学療法学会、日本ウィルス学会、日本免疫学会、日本癌治療学会、日本網内系学会、日本分子生物学学会、日本遺伝学会、(財)日本実験動物学会、日本肺癌学会、日本医学学会

申込先：第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

〒100 千代田区霞ヶ関3-2-2

文部省学術国際局学術情報課気付
Tel. (03)3581-4211 (内線)2591
Fax. (03)3506-0769
第11回「大学と科学」公開シンポジウム
『がん研究最前線』事務局
〒460 名古屋市中区金山1-9-19ミズノビル4F
中日本装備(株)内
Tel. (052)322-1700, Fax. (052)322-1760

聴講費：無料。聴講希望者が多数の場合は抽選となります。

聴講申込：シンポジウム名『がん研究最前線』・氏名・住所（自宅か勤務先を明記）・職業（勤務先における職務を明記）をハガキにご記入の上、お申込み下さい。

1996年12月10日（火）

1. あいさつ 10:00~10:10
高久史麿(自治医大 学長)
文部省
2. がんとはどんな病気か? 10:10~10:50
司会 高久史麿(自治医大 学長)
北川知行(癌研 所長)
3. 社会生活とがん 10:50~12:10
司会 黒木登志夫(昭和大・腫瘍分子生物学センター長)
- 1) 時代とともに変遷するがん
富永祐民(愛知がんセンター 研 所長)
- 2) 日本人移民のがん
清水弘之(岐阜大・医 教授)
4. がんの原因 13:10~14:30
司会 富永祐民(愛知がんセンター 研 所長)
- 1) がんを作る化学物質
福島昭治(大阪市大・医 教授)

2) がんウイルス

伊藤嘉明(京大・ウイルス研 所長)

5. がん細胞 15:00~17:00
司会 伊藤嘉明(京大・ウイルス研 所長)

- 1) 細胞増殖のコントロール
黒木登志夫(昭和大・腫瘍分子生物学センター長)

2) 転移のメカニズム

清水元治(金沢大・医 教授)

- 3) がん細胞と宿主 浜岡利之(阪大・医 教授)

1996年12月11日（水）

6. 遺伝子の病気としてのがん 10:00~12:00
司会 田原栄一(広島大・医 教授)

1) がん遺伝子 清水憲二(岡山大・医 教授)

2) がん抑制遺伝子 佐谷秀行(熊本大・医 教授)

3) がん遺伝 武部 啓(京大・医 教授)

7. がん診断と治療の進歩 13:00~16:50
司会 北川知行(癌研 所長)

1) 遺伝子診断 田原栄一(広島大・医 教授)

2) がんの集団検診—前立腺がんを例として
渡辺 決(京都府医大 教授)

3) 白血病の治療 上田龍三(名古屋市大・医 教授)

4) 消化器がんの治療 高橋俊雄(京都府医大 教授)

5) 遺伝子治療 新津洋司郎(札幌医大 教授)

8. あいさつ 16:50~17:00
北川知行(癌研 所長)

「生命を育む情報」—細胞内シグナル伝達の研究、最近の進歩—

会 期：1997年1月21日（火）・22日（水）

会 場：神戸国際会議場
(三宮から神戸ポートライナー市市民広場駅すぐ)
(神戸市中央区港島中町6-9-1)

主 催：第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

後 援：文部省、学術情報センター、日本学術振興会、放送大学学園、経済団体連合会

(社)日本生化学会、(社)日本薬学会、日本分子生物学学会、日本細胞生物学学会、日本薬理学会、(社)日本内分泌学会、(社)日本糖尿病学会、日本神経化学学会、日本生物物理学会、日本癌学会、日本臨床代謝学会、日本毒科学会

申込先：第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

〒100 千代田区霞ヶ関3-2-2
文部省学術国際局学術情報課気付
Tel. (03)3581-4211 (内線)2591
Fax. (03)3506-0769
第11回「大学と科学」公開シンポジウム
『生命を育む情報』事務局
〒460 名古屋市中区金山1-9-19ミズノビル4F
中日本装備(株)内
Tel. (052)322-1700 Fax. (052)322-1760

聴講費：無料。聴講希望者が多数の場合は抽選となります。

聴講申込：シンポジウム名『生命を育む情報』・氏名・

住所（自宅か勤務先を明記）・職業（勤務先における職務を明記）をハガキにご記入の上、お申込み下さい。

1997年1月21日（火）

1. 挨拶 9:50~10:00
第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
文部省

2. 基調講演 10:00~11:00
司会 栗原堅三(北大・薬 教授/学部長)

生命にとってシグナル伝達とは何か—シグナル伝達の基本的原理—
宇井理生(都臨床研 所長)

3. 感覚受容とシグナル伝達 11:00~14:15
司会 堅田利明(東大・薬 教授)

1) 視覚と嗅覚の情報伝達と情報処理
中西重忠(京大・院・医 教授)

2) 化学感覚の受容体と情報
栗原堅三(北大・薬 教授)

3) 生物時計の位相調節と明暗情報
深田吉孝(東大・院・理 教授)

4. 細胞膜における情報の転換 14:15~15:45
司会 宇井理生(都臨床研 所長)

1) 三量体G蛋白質の役割
堅田利明(東大・薬 教授)

2) 非受容体型チロシンキナーゼ、Srcファミリーを介するシグナル伝達
山本 雅(東大・医科研 教授)

5. 特別講演 16:00~17:00

司会 宇井理生(都臨床研 所長)
細胞内シグナル伝達の研究—その歴史と展望—
西塚泰美(神戸大 学長)

1997年1月22日(水)

6. 細胞内シグナリング 10:00~12:15

- 司会 春日雅人(神戸大・医 教授)
- 1) シグナルの受け渡しにおけるSH2, SH3ドメインの役割 竹縄忠臣(東大・医科研 教授)
 - 2) Rasスーパーファミリー 高井義美(阪大・医 教授)
 - 3) MAPキナーゼと発生、分化および癌 西田栄介(京大・ウイルス研 教授)

7. 疾病とシグナル伝達 13:15~17:15

- 司会 高井義美(阪大・医 教授)
- 1) インスリンの作用機序と糖尿病 春日雅人(神戸大・医 教授)
 - 2) 肥満遺伝子産物(レプチン)と受容体 中尾一和(京大・院・医 教授)
 - 3) インターフェロンと生体防御 谷口維紹(東大・医・教授)
司会 竹縄忠臣(東大・医科研 教授)
 - 4) 細胞死のシグナル 長田重一(阪大・医 教授)
 - 5) 酸化ストレスとレドックス制御 淀井淳司(京大・ウイルス研 教授)

○第9回 日本蛋白質学会年会

会 期: 1997年5月7日(水)、8日(木)

会 場: 千里ライフサイエンスセンター5階
ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)
(〒565 豊中市新千里東町1-4-2)

参加費: 一般 7,000円、学生 3,000円、懇親会 6,000円

演題募集: 一般口頭発表・ポスター発表演題

題目締切: 1997年1月31日(演題申込みは、ハガキに「演
題申込」と記入の上、お送り下さい)

要旨締切: 1997年3月31日必着(講演要旨の書式につい

ては、演者に直接お知らせします)

シンポジウムは次の通りです。

- ・特別シンポジウム(仮題 生体機能と分子認識)
- ・シンポジウム(仮題 医薬品設計を目指して: 分子認識の問題点)

送付先: 〒565 吹田市古江台6-2-3

生物分子工学研究所・構造解析研究部門

第9回日本蛋白質学会年会事務局(担当: 石川)

Tel. (06)872-8201, Fax. (06)872-8219

雑誌 Genes to Cells 第2巻の
購読のご案内

日本分子生物学会 会長 松原謙一
日本分子生物学会 編集幹事 吉川 寛

GENES TO CELLS

Order Form - 1997 Subscription



I would like to register subscription(s) to GENES TO CELLS for myself, starting with the January 1997 issue. The special MBSJ price is ¥8000 per subscription.

(Category 6)

Name

Delivery Address

.....

I would also like to register subscription(s) to GENES TO CELLS on behalf of the following persons or institutions, starting with the January 1997 issue. The special MBSJ price is ¥8000 per subscription.

(Category 7)

1. Name
- Delivery Address
-
2. Name
- Delivery Address
-
3. Name
- Delivery Address
-

PAYMENT DETAILS

I therefore attach payment for a total of subscriptions to GENES TO CELLS for 1997 at ¥8000 per subscription.

Unfortunately we are unable to process subscription payments in yen. We will therefore charge you an amount per subscription in sterling which will be equal to or less than ¥8000 at the exchange rate in force on the day that we process your order.

Please debit my American Express / Diners / Eurocard / JCB / Mastercard / VISA
card no: expiry date/.....
Signature date

Please send me an invoice (all subscriptions are payable in advance)

Name

Address

Street / PO Box

Town County.....

Country Telephone

Post/Zipcode e-mail

Please return to:

Anna Rivers, Blackwell Science Ltd, Osney Mead, Oxford OX2 0EL, UK
Tel: +44 1865 206206; Fax: +44 1865 206096
e-mail: anna.rivers@blacksci.co.uk

雑誌 Genes to Cells の購読とキャンペーンに関するお願い

新しい雑誌 Genes to Cells が富沢純一編集主幹のもとで刊行され、すでに号を重ねてきたことは、皆様ご存じのことと思います。内容、体裁ともに整った科学誌が世に出るようになり、富沢主幹の御努力を多とするものです。

すでに繰り返し述べているところですが、この雑誌は日本分子生物学会の会誌ではありません。しかし、Genes to Cells の刊行には、この活発な研究分野で、世界に向けてアジア、特に日本から貢献しようという心が強く籠められています。このため、日本分子生物学会は、この雑誌の刊行を全面的に支援し、その成功に協力を惜しまない覚悟です。

この雑誌が高い評価と地位を得るためには、いつも質の高い論文が載せられていなくてはなりません。幸い、これまでのところこの条件は充たされています。

ところで、質の高い論文が集まるには、雑誌のサーキュレーションがよいこと、あるいは浸透度が高いことが大切な条件の一つになります。発刊後の2ヵ年くらいが特に重要な期間で、この間にどのくらい浸透するかは雑誌の成否が大きく左右されるといっても過言ではありません。

そこで、学会として次の購読キャンペーンを展開したいと思います。皆様の御理解と御協力をお願いする次第です。

1. まず何よりも、会員の皆様に購読の申込みをお願いいたします。

Genes to Cells をあえて日本分子生物学会の学会誌としなかったのは、会員の方々による自発的な購読を支えとして国際誌としての地位を確保したいという願いによるものです。購読申込書にあるように、会員価格を設けております。

しかし、会員による現在の購読数は決して満足できるものではありません。全会員数7千余、年会参加者5千、発表演題数2千数百という学会の活況を考えれば、年會に演題発表をする研究グループには少なくとも1冊の Genes to Cells が備えられるよう、会員の皆様の購読をお願い致します。

2. 通常の購読申込みのほかに、複数冊の購読申込みに御協力をお願いします。

単に複数冊買い取るだけでなく、それらを最初の1年間あるいは2年間、皆様と関係の深い世界的にも有力な研究室に寄贈していただけないでしょうか。

雑誌は出版社から自動的に相手方研究室に送られますが、送付される雑誌には「Dr.……の寄贈による」というコメントが付けられます。これによって、雑誌 Genes to Cells およびそこに掲載された論文を世に周知させる効果は計り知れないと思います。もし同一の方に対して複数の寄贈の申し出がある場合には、出版社により調整され、重複が避けられます。

また御自身で購読される2冊目以降の雑誌を教室や研究室において頂ければ、若手の人々の利用に供することができると思います。

「御自身で○冊、しかじかの研究室への寄付として○冊」と空欄をいれた Subscription form を用意いたしました。皆様の御賛同と御協力をお願い致します。

日本分子生物学会 会長 松原謙一
日本分子生物学会 編集幹事 吉川 寛

日本分子生物学会 会報

年 3 回刊行

第55号 (1996年11月)

発 行：日本分子生物学会 庶務幹事

製 作：学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所